



2024年12月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <https://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.154 ＜自塾を見直すために他塾調査を！＞

2024年は、2023年以上に、厳しかった年でした。この2年間の物価高で、消費活動が停滞しました。可処分所得も減り、教育費はどんどん絞られることとなりました。2025年を目前に控え、今回は、自塾のコンセプトやサービスの在り方を見直すために、他塾調査に関するをお伝えします。

地域の塾のことを知る一番の手段は、チラシやHPやブログです。他塾のチラシやHPやブログを徹底的に分析してください。例えば、どんなサービスが掲載されているのか。自塾にないものは何か。自塾でもやっていることがあれば、その塾はどのように・どの程度やっているのか。「成績を上げます」とあるが、上げる仕掛けが本当にあるのか。あるとすればどこなのか。また、「補習をします」とあるが、うちの補習とどこが違うのか。このチラシやHPやブログから読み取れる補習の頻度はどれくらいなのか。どんな補習を行っているのか。ブログから読み取れる塾や塾長のカラーはどうか。このような視点を持ちながら、自塾と他塾を比較していきます。

そうして「顧客を良い方向に裏切る」ためにはどうしたらよいか考えます。例えば補習。顧客を裏切る方法は二つです。近隣の塾以上に補習をやるか、全くやらないかです。「通常授業でこれだけの結果が出ています。だから無駄な補習は一切いたしません！」と打ち出したほうが、もしかすると集客効果は高いかもしれません。

また、「補習をたくさんやります」ということは多くの塾で謳っていますが、「補習を何時間やったら成績が上がるのか」ということをチラシに書いている塾はありません。このように、チラシに書いていないことを突き詰めてみるとそれが自塾のコンセプトになり得ます。

例えば、「週3時間以上の補習は無駄です！」という打ち出しはかなり新鮮です。テスト対策なら、「中2の2学期中間テストで90点以上をとるには、英語は8時間、数学は10時間の演習時間が必要です。ですから子どもは、次のようなテスト対策授業を行っています」とデータを駆使した打ち出しは他塾にはない説得力があります。

他塾を知り、他塾を越えるためには、チラシやHPやブログの分析が必要不可欠です。是非、「他塾情報マニア」になってください。

最後に、他塾調査の視点を挙げておきます。自塾が個別指導の塾だからといって、個別指導の塾ばかり調べてはダメです。集団指導の塾も必ず調べてください。競合他塾は、自塾と同じ

指導形態の塾だけではないのですから。まずは以下の項目を調査していただくことをお勧めします。

- ☐ 各学年の受講科目数と科目
- ☐ 各学年の週当たりの通塾日数
- ☐ 各学年の授業開始・終了時刻
- ☐ 各学年の週当たり総時間(分)数
- ☐ 各学年の月当たり授業料
- ☐ 教材費、テスト費、雑費
- ☐ オプション講座の内容
- ☐ 教科外の取り組み・イベント
- ☐ 定期試験対策の有無
- ☐ 各種検定(英検・漢検・数検)への取り組み
- ☐ 体験授業の有無
- ☐ 入会テストの有無
- ☐ 入会金の有無
- ☐ 特待制度/割引制度の内容
- ☐ 在籍数

あなたは、近隣他塾のことをどれだけ知っているでしょうか。どれだけチラシやHPやブログを見ているでしょうか。自塾のコンセプトを作るためにも地域の他塾のことを知る努力を是非行ってください。そして、他塾を超えるコンセプトを創ってください。

ターゲットを絞って広報活動をしない限り、昨今は、生徒は入ってきません。来年度に向けて、自塾を点検し、競争に勝てる塾創りをしていきましょう。

【MBA編集後記】 中土井の会員限定オンラインコンサルを毎月開催！ 「MBA サクセスフォーラム」1月度会員募集

「MBAサクセスフォーラム～塾を育てる勉強ゼミ～」は、学習塾に特化したコンサルティングを行うMBAがこれまでに多数の塾で効果を発揮してきたノウハウ・情報・ツールをご提供する、会員制サービスです。中土井によるオンラインコンサルのほか、会員限定サイトに塾経営・教室運営に役立つツールを配信。教室運営に役立つテンプレートや、面談や研修マニュアル等、270以上がいつでもDL可能です。学習塾に特化した経営情報誌や、教育そのものの知見を深め、塾長の経営力を上げる勉強会など、塾業界・教育業界の最新情報をもとに毎月、盛りだくさんのコンテンツをお届けします。

▼入会時にプレゼント！／最大10万8000円相当の豪華入会特典つき

▼「MBAサクセスフォーラム」の詳細・お申し込みはこちら

https://management-brain.com/members_join/

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.118-1

いつの間にか年の瀬ですね。

すぐに新年を迎えますが、新しい年が始まったらできるだけ早く進級説明会や入塾説明会を開催しなければなりません。スモールチェンジかビッグチェンジかは別にして、事業内容の変更をお考えのところも多かろうと思います。

そこで今回は参考までにということで、ベネッセ教育総合研究所が12月3日に公表した「学校外の学びの状況一瞥い事・学習塾に関するデータ集」を手掛かりに、通塾者の動向や傾向についてみていきたいと思います。

まずは通塾率の推移です。

通塾率の推移 (%)

	2015 年	2019 年	2023 年
小 1 ～小 3	17.1%	17.2%	15.1%
小 4 ～小 6	29.6%	31.4%	31.3%
中学生	50.1%	47.0%	46.1%
高校生	30.1%	29.0%	29.2%

コロナ前と比べて通塾率は多少下がっています。2015年との比較で最も下がっているのは「中学生」で－4.0ポイント、次が「小1～小3」で－2.0ポイント、その次が「高校生」で－0.9ポイント。「小4～小6」だけは＋1.7ポイントと上がっています。

各地で公立高校の定員割れが発生しているうえに、大学では年内入試が拡大。高校受験、大学受験ともに易化しているという印象もあって、大都市圏での中学受験の広がりを受けた「小4～小6」を除き、全体としての通塾率はやや下がり気味といったところでしょうか。

23年時点で通塾率が最も高い学年は「中3生」で60.4%、次が「中2生」で45.2%、その次が「小6生」で38.0%、さらにその次が「高3生」で35.7%です。

地域による違いは大きいようです。

地域別にみる通塾率 23年7月～9月時点 (%)

	政令指定都市・特別区	15万人以上	5万人～15万人	5万人以下
小1～小3	20.2%	14.3%	11.8%	9.9%
小4～小6	40.4%	29.9%	26.1%	21.0%
中学生	51.7%	45.3%	43.8%	38.1%
高校生	32.8%	29.0%	26.8%	25.5%

いずれの学齢段階でも最も高いのは「政令指定都市・特別区」で、最も低い「5万人以下」との差は「小1～小3」で10.3ポイント、「小4～小6」で19.4ポイント、「中学生」で13.6ポイン

ト、「高校生」で7.3ポイント。かなりありますね。

地域間での通塾率の差については文科省が行った15年度と23年度の「全国学力・学習状況調査」でも同様の結果が出ています。こちらで紹介しておきましょう。

学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか

(23年度は「インターネットを通じて教わっている場合も含む」)。(%)

	小 6 生		中3生	
	15 年度	23 年度	15 年度	23 年度
全国平均	47.4%	45.9%	60.7%	60.0%
大都市	53.8%	53.6%	68.3%	68.6%
中核市	47.6%	45.5%	62.7%	61.3%
その他の市	44.8%	41.8%	59.1%	56.8%
町村	39.0%	35.7%	50.9%	48.8%
へき地	28.8%	26.5%	32.8%	33.5%

「全国平均」は国公立立すべて含めて、「大都市」以下は公立小・中学校の通塾率ですが、15年度調査でも23年度調査でも人口規模が小さくなるにつれて低くなっています。

気になるのが地域別でみた15年度と23年度との差です。

「小6生」の場合、「大都市」は－0.2ポイントですが、「中核市」は－2.1ポイント、「その他の市」は－3.0ポイント、「町村」は－3.3ポイント、「へき地」は－2.3ポイント。人口規模が小さくなるほど大きく下がっています。

「中3生」の場合は、「大都市」と「へき地」は上がっています（前者＋0.3ポイント、後者＋0.7ポイント）。ただし、「中核市」は－1.4ポイント、「その他の市」は－2.3ポイント、「町村」は－2.1ポイント。やはりかなり下がっていて、地方に行けば行くほど塾の集客が難しくなっている様子がうかがわれます。「へき地」の「中学生」は近年急激に増加した公設塾の影響が出てきたのかもしれませんが。

ベネッセ教育総合研究所のデータで一番わたしの興味を引いたのは塾の種類の推移でした。

【表は次ページに掲載】

詳しくはじっくり数字をご覧くださいことにして、とくに気になったところだけ記しておきます。

「小1～小3」では「プリント教材の教室」の割合が減り、「補習塾」と「進学塾」とが増えています。また、「集団指導」が減って「個別指導」が若干増えています。

「小4～小6」でも「プリント教材の教室」が減って、「補習塾」と「進学塾」が増えています。「集団指導」も減っています。

「中学生」は「補習塾」が多少増え、「進学塾」が多少減っています。「集団指導」がかなり減り、「個別指導」が増えています。

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.118-2

学習塾の種類（通塾者の内訳 / %）

小1～小3		2015年	2019年	2023年
塾の種類	プリント教材の教室	78.8%	78.6%	70.1%
	補習塾	12.6%	11.3%	17.2%
	進学塾	8.5%	10.1%	12.7%
指導形態	集団指導（4人以上）	67.1%	72.6%	59.8%
	個別指導（1～3人）	25.5%	21.9%	28.6%
	映像授業	0.3%	0.6%	4.2%
	その他	7.1%	4.8%	7.4%

小4～小6		2015年	2019年	2023年
塾の種類	プリント教材の教室	38.9%	37.0%	30.6%
	補習塾	24.2%	26.8%	29.9%
	進学塾	36.8%	36.2%	39.5%
指導形態	集団指導（4人以上）	69.4%	69.4%	65.4%
	個別指導（1～3人）	27.1%	26.8%	28.2%
	映像授業	0.3%	0.4%	3.2%
	その他	3.1%	3.4%	3.2%

中学生		2015年	2019年	2023年
塾の種類	プリント教材の教室	9.1%	10.3%	9.4%
	補習塾	40.3%	44.0%	43.4%
	進学塾	50.7%	45.7%	47.2%
指導形態	集団指導（4人以上）	61.9%	59.4%	54.9%
	個別指導（1～3人）	35.3%	37.0%	39.7%
	映像授業	0.9%	1.4%	3.1%
	その他	1.9%	2.1%	2.3%

高校生		2015年	2019年	2023年
塾の種類	プリント教材の教室	3.2%	2.7%	1.7%
	補習塾	27.0%	27.2%	30.0%
	進学塾	69.8%	70.1%	68.4%
指導形態	集団指導（4人以上）	40.8%	31.8%	30.1%
	個別指導（1～3人）	37.0%	42.2%	44.6%
	映像授業	20.4%	23.7%	22.6%
	その他	1.8%	2.3%	2.7%

「高校生」も「補習塾」が多少増え、「進学塾」がわずかに減っています。「集団指導」が大きく減り、「個別指導」が大きく増えたことと併せて考えると、学校の成績がモノを言う、大学への推薦入試希望者の増加が影響しているかもしれません。小中生に比べて人気のある「映像授業」は若干増えているようですが、誤差の範囲内と言ったところでしょうか。

世帯年収別にみる通塾率 23年7月～9月時点（%）

	400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800万円以上
小1～小3	9.3%	10.4%	11.5%	22.3%
小4～小6	20.3%	20.8%	27.2%	43.3%
中学生	32.1%	40.1%	43.7%	55.5%
高校生	18.3%	22.0%	25.8%	34.8%

最後に世帯年収別の通塾率をみておきましょう。

どの学齢段階でも世帯年収が高いほど通塾率が高くなっています。とくに「小1～小3」と「小4～小6」の「800万円以上」は他を圧倒しています。

ちなみに厚労省「国民生活基礎調査」によれば、「児童（18歳未満の未婚の者）のいる世帯」の22年の平均世帯所得は812万6000円、中央値は731万円、「400万円未満の世帯」の割合は15.7%、「400～600万円未満」は19.8%、「600～800万円未満」は21.8%、「800万円以上」は42.7%でした。

皆さんも肌感覚で十二分に感じ取っておられると思います。が、全体としての通塾率は間違いなく少しずつ下がっていています。通塾者数も少しずつ減っていています。主因は少子化ですからやむを得ないことと理解するよりほかありません。

とはいえ、すべての地域、すべての学年、すべての種類の塾、すべての所得層で下がっていているわけではありません。逆に、過熱化しているところさえ見受けられます。

これまでの「わが塾」はひとまず脇に置き、この先を見据えて、ターゲットを的確に捉えた対策をとる。いま、大事なのはこれでしょう。ご多忙な時期ですが、1年の計をしっかりと練っていただきたいと思います。

PS・コンサルティング・システム
小林 弘典